

第7回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会 会議録（要旨）

会議名	第7回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会
開催日	令和5年12月22日（金） 午後1時30分から午後3時00分まで
開催場所	旭川市民文化会館 第2会議室（旭川市民文化会館 2階）
出席者 （敬称略）	参加者 全12名のうち9名出席 上田 信津子，大口 優，大谷 薫， 佐藤 淳一，鈴川 雄太，水野 雅文， 南 裕一，宮田 健一，森 傑（オンライン参加） 事務局 4人出席 社会教育部長，文化ホール担当課長，市民文化会館主査（2人） 事務局支援 7名 北海道大学大学院建築計画学研究室
会議の公開非公開の別	公開
傍聴者数	1名
会議資料	別紙のとおり

1 開会

進行役：

- ・ 大雪の影響により交通状況の問題で現地に行くことができなかったため，オンラインでの参加とさせていただく。

2 議事

- （1） 第6回会議の振り返り

事務局：

- ・ 前回の検討会では、コンセプトキーフレーズ（案）及び敷地の要素について意見交換を行った。その際いただいた意見は「資料1 キーワードマップ」に太字で掲載している。
- ・ また、本日の主題であり、この後説明する「資料2 旭川市民文化会館整備基本構想（素案）」は、キーワードマップに掲載した、これまで皆様からいただいた意見を反映して作成している。

（2） 旭川市民文化会館整備基本構想（素案）について

事務局：

- ・ 旭川市民文化会館整備基本構想（素案）は全6章と資料編で構成している。
- ・ 本日お配りした資料では第5章及び第6章は作成中としているが、第5章では管理運営に係る一般的な事例について、第6章では来年度以降の大まかなスケジュールを掲載する予定であり、近日中に皆様に確認いただけるよう対応する。
- ・ 第1章では「基本構想策定の背景」として、基本構想の大まかな構成や、過去の検討経緯について説明している。
- ・ 第2章では「(仮称) 新文化ホールを取り巻く環境」として、関係法令や旭川市の関連計画等のほか、旭川市民文化会館の現状や周辺のホール状況、昨年度開催した「旭川市民文化会館のあり方検討会」と現在開催している「旭川市民文化会館整備基本構想検討会」の開催状況について記載している。
- ・ 第3章では「(仮称) 新文化ホールの基本的な考え方」として、基本理念（コンセプト）と基本的な役割について記載している。これまでの会議でいただいた意見を踏まえ、基本理念として「次世代へつなげる文化交流活動の拠点：シビックプライドを育む道北のランドマーク」というフレーズを掲げている。文化交流活動を過去から未来へと続く地域の共有財産と捉え、文化ホールを次世代へつなげる、地域に広がる拠点として位置付けている。また基本的な役割としてキーワードマップから抜粋し、これまでの議論の大事なエッセンスを7つにまとめて構成している。
- ・ 第4章では「(仮称) 新文化ホールに必要な機能と考え方」として、第3章に記載した基本理念を実現するために必要となる施設機能について「鑑賞」「活動」「交流」「発信」の4つを掲げ、各機能の説明と、諸室の基本的な方針や配慮事項について記載している。また多機能化の検討や施設規模については、配置や動線等のより具体的な要素と密接に関係することから、基本計画において引き続き検討していくこととしている。

進行役：

- ・ 文化ホールの基本構想は他市町村との差異が感じにくいものになりがちであるが、本基本構想（素案）の旭川らしいポイント、強調している部分について補足してほしい。

事務局：

- ・ 第3章で基本理念として示した語中の「シビックプライドを育む道北のランドマーク」が特徴であると考え。「シビックプライド」という言葉は、文化ホールの基本理念に挙げることは少ないフレーズであると思う。本検討会では、市民が誇りや愛着を持てることが大事であるという意見がたびたび挙げられており、「ここに行けば自分も何かできる」という市民の当事者意識を将来に向け育んでいくという願いも込めて、「シビックプライド」という語を用いている。
- ・ この基本理念を実現するための施設機能（第4章）においては、特に「交流」と「発信」が特徴となる。「交流」はコンベンションはもちろん、コンベンション以外の交流、ふらっと訪れた人も含めて輪を広げていくという部分を強調したいと考え、記載している。「発信」は「鑑賞」「活動」「交流」を市民へ広げていくこと、そして子供たちへつなげていくことを意識している。

進行役：

- ・ 資料中での用語の解説として、「複合化」は既存の建物の機能をあわせて一つにするときに使う用語であり、それぞれの機能を持つ複数の建物を集約する場合に使用する。
- ・ 一方で「多機能化」とは、既存の建物の集約という背景はなく、単にその施設自体が色々な機能を持っていることである。

(3) 質疑応答・意見交換

進行役：

- ・ 基本理念が基本構想の根幹となるので、まずはこの点について意見を伺いたい。

参加者：

- ・ これまでの会議で挙げられた、たくさんの意見がよく集約されている。
- ・ 基本理念の「シビックプライド」という言葉が瞬時に理解できず、老若男女が読んだ時にすぐに分からないのではないかという点が気になる。
- ・ 「ここに行けば何かができる」というのも、「できる」だけだと断定的になってしまうので、「可能性」や「広がる」など、もう少し解釈の幅を持たせられるような言葉を追加した方が良いのではないか。

進行役：

- ・ 「シビックプライド」を「誇りと愛着を育む」にした方が分かりやすいかもしれない。国際的には使用され認知されている概念なので、本文中で説明するという方法もある。

参加者：

- ・ 旭川の場合、「ランドマーク」と言われると市民は旭橋などが思い付くと思うが、「市民が愛着や誇りを持ち、集うための目標物」と考えると、良いフレーズなのではないかと思う。

進行役：

- ・ 先ほど提案のあった「可能性」という言葉を入れると、未来を見ているというニュアンスも加わり、基本理念に示す意図がより伝わると思う。

参加者：

- ・ 他の方も仰るとおり、「シビックプライド」は素直に「市民の誇りや愛着」のほうがつきりするように思う。
- ・ また「ランドマーク」は一般市民からすると、目立つ建物というイメージになると思う。

進行役：

- ・ 日本語で補いきれないニュアンスを出したい時にカタカナ用語を使用するが、理解が難しくなる傾向はある。「ランドマーク」は必ずしも物理的に目立つ建物だけを指すわけではないが、一般的にはそうした建物をイメージされることが多い。

参加者：

- ・ 「シビックプライド」に関しては、他の方と同様に感じる。
- ・ 「ランドマーク」と聞くと、建物のデザイン性を重視するとイメージされる懸念がある。そうではなく、「文化交流活動の拠点」という意味を込められれば良いと感じた。

参加者：

- ・ コンベンション機能に関しても配慮された資料であると感じた。
- ・ 昨日、旭川駅で観光案内をされていて感じたが、旭橋は駅から見えない位置にある。
- ・ ここまでの意見では、「ランドマーク」という言葉から想起される「目立つ建物」という要素について否定的な意見が多いように感じるが、(仮称)新文化ホールが市内の目印となるような、外観が目立つランドマークになっても良いと思う。

進行役：

- ・ 将来の市民活動を代表する拠点としての「ランドマーク」は、必ずしもデザイン的な個性を必要とするものではないと思う。そうした意味で、(仮称)新文化ホールが旭川の30年後のランドマークになっても良いのではないかと思う。

参加者：

- ・言葉が分かりやすく、じっくりくる内容だと思うが、「シビックプライド」に関しては他の方々同様、表現方法の検討をお願いしたい。
- ・施設機能に関して、「鑑賞」「活動」「交流」「発信」の4つが並列に記載されているが、「発信」は他3つの機能について「発信」するものであり、少し位置付けや大きさが異なるのではないか。

進行役：

- ・機能としての「発信」はもう少し大きな意味合いで使用しており、他の機能と並列で良いと考えるが、現状の各機能の説明ではその意図が分かりづらいので、適宜修正していきたい。

参加者：

- ・これまでの6回の会議での発言がよくまとめられていると感心した。
- ・「インクルーシブ」や「アクセシビリティ」など、基本的な役割に関してもカタカナ用語が多く、説明を読まないで理解できないというのが率直な印象。
- ・「ランドマーク」が対象となる建物ではなく、内容ある中身を想起させるような基本理念であってほしい。

進行役：

- ・現時点では即物的な説明になっている部分が多いのでもう少し検討していきたい。
- ・カタカナ用語の使い方は今後も事務局で精査していく。カタカナ用語は、これまで日本になかった概念などを説明するときに使用される。例えば「インクルーシブ」という概念を無理矢理日本語にすると「社会包摂」となるが、これではかえってイメージがしづらい。誰が読んでも分かりやすい言葉にする、あるいは日本語と並置するという対処を事務局には考えてもらいたい。

参加者：

- ・コンセプトに「次世代につなげる」という言葉が入っており嬉しく思う。
- ・全体として分かりやすく、市民の目からもイメージしやすいコンセプトになっているのではないかと思う。

進行役：

- ・ここまでの内容について事務局から補足はあるか。

事務局：

- ・ これまでの会議で紹介した先進事例については、資料編に記載する。その中で施設機能に関して、先進事例を参考に重視すべきポイントを視察内容とあわせて紹介する予定である。

進行役：

- ・ 第4章に関しても、意見があればいただきたい。

参加者：

- ・ 基本理念の「次世代へつなげる」という言葉は、これまでの会議でもたびたび意見として挙げられていた要素であり、重視されているのだと思う。
- ・ 4つの施設機能は、いずれも基本理念の「次世代へつなげる」ことが念頭にあると思うが、第4章だけを読んでいるとそれが当たり前のものになってしまい、意識から薄れてしまうように感じる。
- ・ 4つの施設機能それぞれの語頭に「次世代のための」または「誇りを持てる」といった言葉を付するなど、第4章（施設機能）と第3章（基本理念）の結びつきを意識できる記載とすることで、市民に浸透していくのではないか。

進行役：

- ・ 御指摘のとおり、第4章の施設機能はいずれも基本理念に基づくものであり、その点を意識した記載とすることは、大変重要であると思う。
- ・ 長文で記載すると冗長になってしまうので、基本理念との結びつきが意識できるような第4章の記載について、事務局で検討を進めてほしい。

参加者：

- ・ 大ホールの座席数について記載しないのか。
- ・ 敷地について、前回の検討会の後に市議会において建設場所は旧市役所総合庁舎の敷地が有力であると新聞で報道されていたが、今後どのように影響していくのか。

事務局：

- ・ ホールの座席数について、具体的な座席数までは記載していない。メインホールの整備については明記し、その他のホールについては基本計画の中で定めていくとしている。座席数に関しては本検討会で十分な議論を行えていないので、基本計画の中で定めていく。

- ・ 建設場所に関しては、先日の市議会において、旧市役所総合庁舎の敷地が有力候補の一つであると答弁している。これは周辺ホテルや隣接する市役所との連携、アクセス性といった要素を考慮してのものであるが、駐車場に関する課題などもあることから、引き続き庁内で検討していく必要があると認識している。また、市が保有している土地を有効利用することも重要なポイントなので、その観点も含めて検討していく。

進行役：

- ・ 基本構想はコンセプトに関する部分を記載し、基本計画はその建物の仕様を記載するものである。
- ・ 一般的にホールの座席数については、基本構想の中で明確に述べるというのは早く、本検討会においても「議論が及ばなかった」というよりは、「まだ議論する段階ではなかった」とものと認識している。

参加者：

- ・ 何席以上や何席以下など、範囲を定めることもしないのか。たとえば、何席以下のホールでは、この基本構想に示す理念を実現することは難しい等の記載はしないのか。

進行役：

- ・ 指標として「著名なアーティスト」や「コンベンション」といった言葉を記載することで、おおよその規模感や仕様をイメージできる表現としている。
- ・ 座席数を明記してしまった方が分かりやすい一方、基本計画以降の検討に対する縛りにもなってしまうので、こうした記載としている。
- ・ 書き方の工夫に関しては、引き続き検討していく。

参加者：

- ・ 公会堂やクリスタルホールとの関係性が非常に重要になってくると感じるが、基本構想では触れないのか。

事務局：

- ・ 関連する部分としては、資料2の35ページ「(2) 多機能化の検討」において、他の公共施設との連携や役割分担が必要となる旨について記載している。

進行役：

- ・ 具体的な連携内容等までは本検討会の中で十分に議論ができていないので、現時点で記載することは難しい。その点については基本計画で検討を進めていく。
- ・ 本日詳しく触れていない基本構想の章立てについて補足する。

- ・ 第1章では本基本構想がどのようなものなのかを説明し、ここに至るまでの旭川市の経緯をまとめている。
- ・ 第2章では計画にまつわる様々なデータを記述・分析しており、情報の章である。
- ・ 第5章では管理運営の方法として直営や指定管理といった手法について説明し、建設とあわせてPFIを採用するのか等の選択肢について記載する。
- ・ 第6章ではスケジュールに関して、行政や財政とも密接に関わる部分であることから、旭川市には引き続き庁内で調整してもらい、最後に記載する形となる。

参加者：

- ・ コンセプトに関しても、利用団体へのアンケート調査で意見を募るのか。

事務局：

- ・ 教育委員会会議に付議した後、市議会に報告し、2～3月にパブリックコメントを実施する。その結果を反映・整理し、3月に開催を予定している第8回検討会において完成版を提示するよう想定している。

3 閉会